

## A-3

## 看取り目的の入所者・家族支援について

看取り

自然死

終末期ケア

職員の不安解消のための取組み

広島市・中区

特別養護老人ホーム<sup>ゆうゆう</sup>悠悠<sup>え</sup>タウン江波

生活相談員

あみもと  
網本ひろふみ  
浩文

介護福祉士 名越直樹

特養看取り委員会

E-Mail e-tokuyo@yuuyuu.hiroikai.or.jp FAX 番号 (082) 296-4818

施設（事業所）  
またはサービスの  
概要

平成 7 年 4 月、広島市中区江波に開設。従来型定員 80 名、短期入所生活介護 20 名を併設。入所者の平均介護度は 4.1。平均年齢は 86.6 才。

## I. &lt;取り組み課題&gt;

- ・令和 4～5 年度に、3 名の看取りを目的とした入所者を受け入れた。
- ・3 名の内訳は、  
A さん：80 代、女性、在所日数 15 日間  
B さん：90 代、女性、在所日数 8 日間  
C さん：90 代、女性、在所日数 9 日間  
A さんと C さんは医療機関に入院、B さんは他施設に入所されていた。家族は経管栄養を続けることに悩み、面会もできない状況であり、家族と自然に最期を迎えることができる施設を探しておられた。
- ・受け入れ後に職員アンケートを実施し、マニュアルの見直しなど行った。取り組みの結果と今後の課題を報告する。

## II. &lt;具体的な取り組み&gt;

- (1) 3 名の入所・看取りに関し、数名の職員から「関わる期間が短く、ご本人の状況を十分把握できなかった。家族との関係作りもできなかった」という意見があった。
- 2) 施設内の「看取り担当者」で話し合いを行い、職員アンケートを実施することとした。  
回答数 介護職員：31 名（回収率 87.1%）  
看護師など：13 名（回収率 81.3%）
- (3) 「看取り目的で入所される理由を把握していますか？」の設問には、「している」（19 名）、「少ししている」（14 名）と回答した。
- (4) 「看取りを目的とした入所に関して、不安などマイナスな感情がありますか？」の設問には、「ある」（1 名）、「少しある」（20 名）、「ほとんどない」（13 名）、「まったくない」（5 名）と回答した。

- (5) 「今後看取り目的の入所者を受け入れるうえで、課題は何だと思いますか？」（複数回答可）の設問には、
- ・「看取り指針」などマニュアルの作成、周知、見直し（14 名）
  - ・アドバンスケアプランニング（以下、ACP）の実施（17 名）
  - ・家族対応、グリーフケアの実施（13 名）
- の 3 つが上位であった。

## III. &lt;活動の成果と評価&gt;

- ① アンケート結果から、職員が何に不安を抱えているのかを把握することができた。
- ② 課題の 1 つである「看取り介護に関する指針」「家族向け看取りパンフレット」について再検討を行った。終末期に臨むことを家族から聞き取りし、家族・職員で共有することとした。
- ③ 職員会議にて再検討の結果を周知した。

## IV. &lt;今後の課題&gt;

医療機関などで面会が制限され、今後も「看取り目的の入所」についての相談はあり得ると考えている。今回の取組みを基に現在のケアを見直し、職員が不安を抱えることなくより良い看取りケアにつなげていく必要がある。また、今回のアンケートの残された課題である「ACP の実施」「家族対応・グリーフケア」については、来年度以降に計画的に取り組んでいく。

## (引用文献)

「みんなで支える終末期のケア」奥野滋子・森谷記代子著 技術評論社（2019 年）